

平成25年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	愛着の内的作業モデルにおける潜在的側面の測定
------	------------------------

研究代表者

氏名 上淵寿	所属 教育心理学講座	職名 准教授
-----------	---------------	-----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

研究の目的

発達初期に、個人と養育者との愛情関係である、愛着が生じる。その後の発達の中で、個人内に愛着にかかわる内的作業モデル (internal working model 以下 IWM と略す) が成立する。IWM は、子どもから成人に至るまで、人のパーソナリティの基礎を成して、精神的健康や人間関係の良好さに大きな影響を及ぼす。ゆえに広義の教育的意義をもつ。

IWM は意識することが困難で自動的に働くとされとされている。だが、実際の研究では、意識的な判断を必要とする質問紙で測定されることがほとんどである。これでは厳密に IWM を測定していることには全くなならない。

その代替手段として、本研究では Go/No-go Association Task (以下、GNAT ; Nosek & Banaji, 2001) を使用して、IWM を測定することを目的とする。GNAT では、実験参加者の無意図的、無意識的な反応から人の「潜在的な」態度や信念を測定できる。心理学の国際的データベース (PsychINFO) で検索したが GNAT による IWM の測定研究はない。本研究は極めて独創的である。

実証研究において予想された結果

IWM は、自己に関するモデル (関係不安) と他者に関するモデル (親密性の回避) の2種類のモデルから構成される。GNAT の開発で、この2種類の IWM を測定することが期待される。また、GNAT によって、その人の IWM から情報処理や行動の予測が可能になるのではないかと。たとえば、従来、質問紙調査では、自己にかかわるネガティブ語の処理を関係不安が、他者にかかわるネガティブ語の処理を親密性の回避が促すとされてきた。これと同様の結果が潜在的 IWM でもみられないか。

研究実施計画・方法

研究1 目的 質的面接を実施し GNAT で用いる刺激語を選定。

方法 参加者 大学生および大学院生 60 名程度

手続き IWM に関わる、「自己が愛されるか否か」と「他者は信頼できるか否か」について連想する言葉をできるだけ多く語ってもらった。

分析 上記の手続きから得られた連想語を分類し、その量や分類した語同士の関係を調べた。この分析から、GNAT の刺激として用いる語を選択した。

研究2 目的 GNAT の実施と語彙の処理との関係を調べる。

方法 参加者 大学生および大学院生 60 名程度 **手続き** PC を使って GNAT を実施し IWM がその情報処理に影響すると考えられる単語 (ポジティブ語、ネガティブ語を含む) を提示し、その正誤を判断する。**分析** 単語処理速度が、関係不安 GNAT と親密性回避 GNAT で異なるかを調べた。

研究の結果

親密性回避は、他者に関する語がプライミングされた場合、ポジティブ語・ネガティブ語両方の反応速度を予測した。親密性回避の自動処理の性質に基づき、“他者”に関連する語がプライミングされることで表象が活性化し、脅威刺激を回避しようとしたと考えられる。また、脅威場面と共に親和的場面でも、他者との関係を回避することが示唆された。一方、親密性回避は、自己に関する語がプライミングされた場合、ポジティブ語の反応時間を予測した。親密性回避の高いほど他者への愛着的行動や親密な関わり合いを避ける特徴より、自己と親和的場面との結びつきが弱いため、ポジティブ情報へのアクセス可能性が低かった。また関係不安は、自己に関する語がプライミングされた場合に、ネガティブ語の反応時間を予測した。ゆえに関係不安は、ネガティブな情報に固執するという特徴を補うため、防衛機制としてネガティブ情報へのアクセスに抑制がかかることが示唆された。

研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

Uebuchi, H., Yamada, K., Sakai, A., Saito, M., Ito, E., Uebuchi, M., & Tonegawa, A. (2014 in press). How does implicit internal working model measured by Go/No-go Association Task have effects on social information processing? Poster presented at the 28th International Congress of Applied Psychology (ICAP2014) at the Paris, France.